

J-ARCHITECT

JAKUETS ARCHITECTURAL DESIGN MAGAZINE

ジェイアーキテクト

VOL.08

三宝認定こども園〈岡山県〉



JAKUETS

伝統を進化させ、 アートと共存する園舎

社会福祉法人 愛和福祉会 三宝認定こども園 様

老朽化による建て替えが必要となった旧園舎には、先代理事長の思い出が随所に込められていた。新園舎はそんな旧園舎の伝統を受け継ぎ、従来の配置や間取りを活かしながら、住環境や設備の使い勝手の向上など、現代の感覚を細やかに取り入れた設計を実現。さらに園が力を入れるアート教育の拠点として、動物を描いたステンドグラスなどの意匠を施した。園児やプロの美術作品の展示スペースも充実させて、子どもたちが多彩な芸術に触れる場としても機能させている。



所在地：岡山県倉敷市
主要用途：保育所型認定こども園
定員：245名
竣工：2019年3月

《園舎概要》
構造：鉄骨造2階建
敷地面積 / 2,065.90㎡
延床面積 / 1,769.03㎡
建築面積 / 1,044.07㎡



1 階段の踊り場には絵本コーナーのほか、アートの展示スペースを設けて、子どもたちがプロの作品に触れる機会を作っている。

3 行事や音楽教育など、さまざまな用途で活用するホール。長方形のスタンドグラスが彩る壁面には、園児たちの絵画も飾られている。

旧園舎の駐車場にあった卒業制作の壁画。保存・複製して、ホールに展示している。

園内各所に園児たちが共同制作した大作絵画を展示。



2 四季をテーマにしたイラストが描かれた北側フェンス。絵本作家の谷口智則氏がライブペインティング方式で制作し、園児たちの意見も取り入れた作品となった。

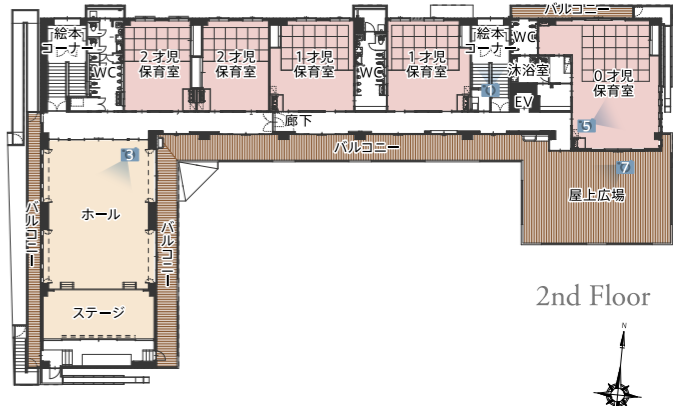
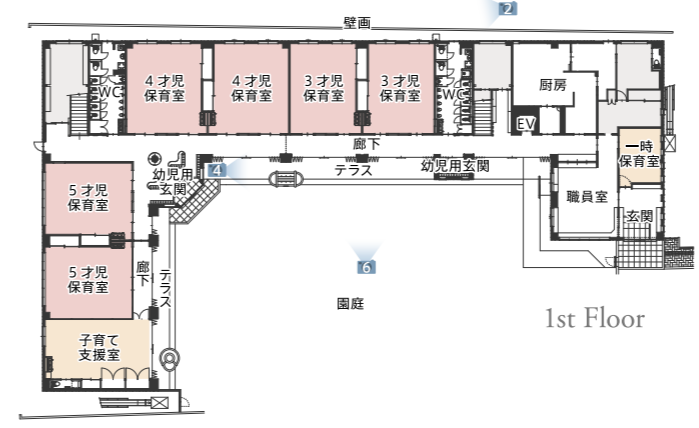


4 1階廊下南側のガラス戸を全開することで、保育室から廊下、テラス、園庭までが1つの空間としてつながり、開放的なあそびと学びの場が生まれる。

快適さと機能性を追求した、 アートが彩る教育空間



北側フェンスのイラスト原画





5 乳児用の保育室。スタンドグラスの絵柄が一つにつながる



6 屋根やバルコニーの軒先からは、オーニングを引き出して日除けにできる。



7 バルコニーに設けた動物のスタンドグラスは、子どもたちが内側から見やすい高さに配慮。

貫く教育姿勢を最新の建物に具現化する——

持宝院の境内で子どもたちを預かったことから始まった当園は、1962年の開園以来、初代理事長だった私の父と先代理事長だった母によって、心と体を共に育む教育を実践してきました。美術や音楽によるカリキュラムにも力を注ぎ、園児たちが絵画や造形物の制作に挑戦したり、マーチングバンドや和太鼓演奏に参加したりすることで、豊かな感性を養っています。

亡き先代理事長の思いを反映

1971年に建設した旧園舎は、その後も数回の増改築を重ね、先代理事長が中心となって、目指す教育にふさわしい建物づくりに取り組んできました。築40年を超えてもまだまだ使用し続けたいと考えていましたが、老朽化と耐震強度の不足で建て替えを避けられなくなったことから、やむなく新築を決意した経緯があります。ですから、新園舎においても、旧園舎のコンセプトや配

置、間取りなどはできる限り引き継ぎたいと考えました。そこから子どもたちの過ごしやすさや保育士の皆さんの使い勝手も追求して、さらに利用者に優しい建物に進化させることが私たちの望みでした。

設計をジャクエツにお願いしたのは、製品を長年使い続けてきた信頼感に加えて、ほかの園舎の設計実績を確認した際に、子ども目線のスマートなデザインに好印象を抱いたからです。設計段階から綿密な打ち合わせの機会を定期的にいただいたことで、こちらの希望を詳細に伝えて、反映してもらうこともできました。

病身を押して打ち合わせに参加していた先代理事長は、残念ながら、新園舎が着工して間もない時期に亡くなりました。しかし母の遺志は、新しい建物の隅々に活かされています。木を多く使った温かみのあるインテリアや、周囲の町並みと溶け込む落ち着いた外観、バリアフリーに配慮した手すりやスロープの設置など、私たちの

願いを見事に形にしてくださったことに満足しています。

充実したデザインと機能性に誇り

完成した園舎に実際に足を踏み入れて感心したのは、自然の光と風を感じられる気持ちの良い空間となっていたことです。園庭に通じる1階廊下のガラス戸が、南側からの日光を目いっぱいに取り込み、広く開放せば園舎内をさわやかな外気が通り抜けていきます。

各所にピックアップレールやマグネット式のホワイトボードを設けていただいて、絵画などを展示できるスペースも充実しました。園児たちが楽器の練習などを行うホールも、内部の広さや照明の明るさなど、使いやすさが格段に向上しています。

デザイン的にも機能的にも、園の関係者全員が誇りを持てる園舎になりました。今後は地域の皆さんとの交流の場としても活用できることを期待しています。

PROFILE

社会福祉法人 愛和福祉会
三宝認定こども園

理事長・園長 新見 彰堂 様

1973年生まれ。2000年からスタッフとして、当時の三宝保育園に関わる。15年に園長に就任。16年に認定こども園に移行後、18年に理事長就任。真言宗御室派持宝院の住職も務める。



設計士コメント

アート教育を充実させる仕掛けを追求

先代理事長の旧園舎への思い入れが深かったことから、設計作業は旧園舎の分析から始まり、その特徴をブラッシュアップしていく方向性で進めていきました。完成した園舎をお見せすることはできませんでしたが、先代理事長には打ち合わせを通じて、園舎へのお考えを熱心にお話しいただき、それが設計の基本コンセプトに結び付いたように思います。

旧園舎を受け継いだL字型の園舎配置は、近接する持宝院から園児たちの姿を見守り、周辺にある小学校や幼稚園との町並みの調和を意識しています。保育室などは園庭とつながる位置にシンプルに並べる一方で、細部においては、作品の展示スペースを壁や階段の踊り場などにさまざまな形で設け、バルコニーをはじめ、各所にスタンドグラスを設置するなど、アート教育の場であることを意識

した仕掛けを随所に施しました。さらに、屋根には耐久性の高い地元・岡山製の平板瓦を使い、雨どいを柱の中に通して隠すなど、建物のデザインと機能を両立させる工夫も盛り込んでいます。

施工中には園児が工事現場の様子を写生しました。竣工後には絵本作家の方をお願いして、殺風景だった北側のフェンスにイラストを描いていただき、園児たちにその制作現場に立ち会ってもらい試みも行いました。新園舎はそうした新たな教育に挑戦できる場であるとともに、先代理事長の思いも詰まった建物として、園の皆様には大切にお使いいただいていると感じます。この園舎がさらなる教育の充実を導けるように、これからも当社のノウハウをご提供して、末長くお付き合いいただけることを願っています。



株式会社ジャクエツ
建築設計課 広島設計事務所
森口 浩



旧園舎の間取りを引き継ぎ、持宝院(画面右下)から園児たちの活動を見守りながら、隣接する小学校(左上)や幼稚園(右上)と町並みの調和を図った配置となっている。



新園舎の施工の様子をのびのびと描いた園児の絵。



2019年9月、園児たちが立ち会った北側フェンスのイラスト制作風景。

子どもたちが主役の「宮殿づくり」

ジャクエツの園舎設計のコンセプトは「子どもたちの宮殿づくり」。
これまでに、幼稚園・保育園専門の設計事務所として、500園以上の園舎を設計させていただきました。
プランニングからアフターフォローまで、子どもたちの成長を第一に、それを支える職員の皆さまを施設設備の面からサポートいたします。

株式会社ジャクエツ
一級建築士事務所



設計事務所 ARCHITECTURE OFFICE

福井本社
福井県知事登録 第1-1784号
〒914-0125 福井県敦賀市若葉町2-1770
TEL 0770-25-1111

東京設計事務所
東京都知事登録 第44805号
〒108-0074 東京都港区高輪4-22-4
TEL 03-5789-1100

宇都宮設計事務所
〒320-0847 宇都宮市滝谷町20-17
TEL 028-614-5070

横浜設計事務所
〒221-0865 横浜市神奈川区片倉2-22-1
TEL 045-488-6253

名古屋設計事務所
愛知県知事登録(い-27) 第13105号
〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-32
TEL 052-265-2730

大阪設計事務所
大阪府知事登録(オ) 第24853号
〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-11-3
TEL 06-6471-3939

広島設計事務所
広島県知事登録17(1) 第5246号
〒730-0843 広島市中区舟入本町6-21
TEL 082-531-0770

福岡設計事務所
〒812-0896 福岡市博多区東光寺町2-8-31
TEL 092-451-0117